

【学力向上フロンティア事業中間報告書】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

二ツ井町立二ツ井小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	19
児童数	53	47	52	54	43	56	4	309	

研究の概要

1 研究主題

一人一人に確かな学力を  
～算数科を中心として～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数（学校として当該教科に関する実績があるということと、子どもの理解度に差が生じやすい教科であるため）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 一人一人に確かな学力を ～算数科を中心として～ 算数科研究課題 主体的に課題に取り組み，共に学び合う子どもの育成 ～学習過程の工夫・個に応じた指導・評価の工夫～</p> <p>研究の見通し（仮説） 基礎的な知識・技能を身に付けた子どもの育成 個別指導や繰り返し指導など個に応じたきめ細かな指導や一人一人のよさや可能性を伸ばす評価方法を工夫し，さらに評価を生かした指導方法の工夫改善を図ることにより，基礎的な知識・技能を身に付けた子どもが育つのではないか。 課題意識をもち，課題解決に向けて主体的に取り組む子どもの育成 子どもの思いや願いを多面的にとらえて共感し，一人一人の課題や実態に応じた指導方法や学習形態を工夫することにより，課題意識をもち，課題解決に向けて主体的に取り組む子どもが育つのではないか。 友達と学び合い，より高いものを求めようとする子どもの育成 自分の考えや思いを積極的に表現し，友達と学び合いながら自己を振り返り，見つめ直す場の設定の工夫と，子ども一人一人が友達のよさに気づき，より高いものを目指そうとする学習集団づくりがなされたならば，友達と学び合い，より高いものを求めようとする子どもが育つのではないか。 学びの力を学習や生活に生かす子どもの育成 仮説 ～ のような授業の工夫改善がなされたならば，学ぶことの楽しさや分かる喜びを味わいながら，学びの力を学習や生活に生かしていく確かな学力を身に付けることができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 主体的に学ぶ力を育てるための学習過程の工夫 ・学習課題設定の場，自力解決の場，練り合いの場，振り返りの場の工夫 個に応じたきめ細かな指導の充実 ・多様な指導方法・学習形態の工夫 ・発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発 子どものよさや可能性に着眼した評価の工夫 ・指導計画に位置づけた具体的な観点別学習状況の評価規準の見直し ・子どもの学習を支援する評価の工夫 ・子どもの実態把握</p>
--------	--

平成  
16  
年度

テーマ 一人一人に確かな学力を ~共に学び合い、高め合う子どもの育成~  
研究の見通し(仮説)

基礎的な知識・技能を身に付けた子どもの育成

個別指導や繰り返し指導など個に応じたきめ細かな指導や一人一人のよさや可能性を伸ばす評価方法を工夫し、さらに評価を生かした指導方法の工夫改善を図ることにより、基礎的な知識・技能を身に付けた子どもが育つのではないか。

課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に取り組む子どもの育成

子どもの思いや願いを多面的にとらえて共感し、一人一人の課題や実態に応じた指導方法や学習形態を工夫することにより、課題意識をもち、課題解決に向けて主体的に取り組む子どもが育つのではないか。

友達と学び合い、より高いものを求めようとする子どもの育成(重点目標)

自分の考えや思いを積極的に表現し、友達と学び合いながら自己を振り返り、見つめ直す場の設定の工夫と、子ども一人一人が友達のよさに気づき、より高いものをめざそうとする学習集団づくりがなされたならば、友達と学び合い、より高いものを求めようとする子どもが育つのではないか。

学びの力を学習や生活に生かす子どもの育成

仮説 ~ のような授業の工夫改善がなされたならば、学ぶことの楽しさや分かる喜びを味わいながら、学びの力を学習や生活に生かしていく確かな学力を身に付けることができるのではないか。

研究内容・方法

学び合い、高め合う力を育てるための指導の工夫

- ・問題解決的な学習の過程における練り合いの場、振り返りの場の充実
- ・自分の思いや考えを生き生きと伝え合うことができる指導の工夫
- ・望ましい人間関係を育てる指導の工夫

個に応じたきめ細かな指導の充実

- ・TTを生かした多様な学習形態の工夫
- ・教科担任制を効果的に生かした指導の工夫
- ・発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発
- ・子どものよさや可能性に着眼した評価の工夫

- ・子どもの学習を支援する評価の工夫

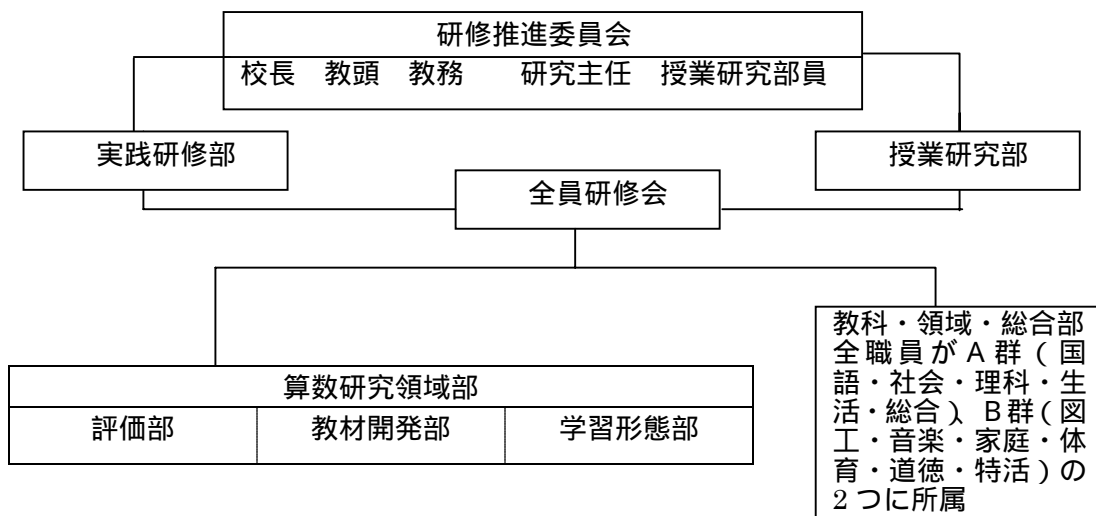
- ・子どもの実態把握

算数の研究成果を他教科に普及

二ツ井中学校との連携

- ・授業交流、情報交換などで連携の強化

### (3) 研究推進体制



#### 評価部

- ・ねらいに即した具体的な観点別学習状況の評価規準の見直し
- ・子どものよさや可能性に着眼した評価方法の工夫
- ・評価を生かした指導方法・指導体制の工夫改善

#### 教材開発部

- ・発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
- ・開発した教材の蓄積とまとめ

#### 学習形態部

- ・T T実施計画立案
- ・T Tの研究推進とまとめ

### 平成 15 年度の成果及び課題

#### 1 研究の成果

##### ① 学習過程の工夫

- ・算数科における「1 単位時間のとらえ方」(学習課題を導き出す活動 学習課題の把握 見通す 自力解決 話し合い まとめ)を共通理解し、実践に当たっては、めあてやまとめなどのカードを活用したりノートづくりを工夫したりした。共通して取り組むことを明確にすることで、問題解決的な学習の過程を重視した指導を行うことができた。
- ・めあてを子どもから引き出すことができるような活動を取り入れることにより、子どもにとって分かりやすい具体的なめあてを設定することができた。また、めあてを提示することが定着し、子どもも意識して取り組むようになった。
- ・子どもが自力解決できるように、子どものつまずきの状況を見通した「ヒントコーナー」や「やってみようコーナー」を設定した。子どもたちは自分のつまずきに合ったヒントを活用したり、具体物や半具体物を操作したりして課題解決に向けて主体的に取り組むようになった。また、多様な解き方や考え方を見いだすことに喜びを感じる子どもが多くなった。12 月の意識調査でも算数が好きな理由として「いろいろな方法で求められるから」「考えるのが楽しいから」と答える子どもが多かった。
- ・ハンドサインの活用やグループから一斉など学習形態を工夫することにより、子どもたちが意欲的に話し合いに参加するようになってきた。話し合いの観点を示したことも効果的であった。

##### ② 個に応じた指導

- ・学習のねらいや子どもの実態に応じて、T Tを有効に活用した指導方法や学習形態を工夫した。例えば単元を通して行う習熟度別学習の場合は1 C 3 Tを基本とし、習熟の程度に応じて3つのコースを設定した。毎時間のねらいはどのコースも同じになるので、どのコースの子どももねらいを達成できるように、子どもの実態に応じて教材・教具を準備したり学習過程を工夫したりした。単元の終末に行う習熟度別学習の場合は、確実に単元の目標を達成できるように、子どもの実態を明確にとらえてからそれぞれのコースのねらいや学習内容、そしてT Tにかかわる人数を決定した。子どもたちからは自分に合ったコースで学習すると理解できると好評である。実際に個に応じた指導の充実を図ることで、学習内容の定着の面でも着実な成果が見られた。1月に実施した都市一斉算数テストの結果は、1年...95.1点、2年...93.1点、3年...93.8点、4年...95.5点、5年...89.4点、6年...95.1点とどの学年も高い平均点であった。

##### ③ 評価の工夫

- ・評価規準に基づいた評価カードや座席表を活用し、個々の学習状況を記録していくことで、個に応じた適切な指導を工夫することができた。
- ・自己評価カードを記入させたことは、子どもが自分の学習状況を把握し、習熟度別学習でコースを選択する際にも効果的であった。また、指導者も補充的な学習や発展的な学習へとつなげたり、次時の学習に生かしたりすることができた。

## 2 今後の課題

### ① 学習過程の工夫

- ・子どもが興味・関心をもち、さらに意欲的に学習に取り組むことができるように、子どもの生活に結び付いた学習課題の設定を工夫する。
- ・子どもが自力解決できるように支援するためには、子どもがどこでどのようにつまづくかを子どもの側に立って深く綿密に教材分析する必要がある。
- ・子どもたちで学び合い、よりよい考えを見いだしていけるように、話し合う力などの主体的な学びを支える力を育てていく必要がある。また、学習過程における練り合いの場や振り返りの場を充実させていく必要がある。
- ・1単位時間の時間配分を明確にし、学習内容の確実な定着を図るための時間を確保する。

### ② 個に応じた指導

- ・実際の授業に即して効果的だった実践を記録するような形で算数科年間指導計画(目標、学習活動、時数、おもな評価規準、努力を要すると判断される子どもや十分満足できると判断される子どもへの手立てなど)の見直しを図ってきた。それをもとに、個に応じた指導の充実を図ることができるような指導方法の工夫改善、学習形態の見直しをする必要がある。

### ③ 評価の工夫

- ・コース別学習を行う場合は、それぞれのコースでの子どもの実態をきちんととらえ、学習状況について継続的・総合的に把握できるような評価を工夫する。
- ・子どもの自己評価能力を高めることができるように、自分のよさや可能性、進歩に気付くことができるような自己評価カードを工夫したり、互いのよさを認め合うことができるような相互評価の仕方を工夫したりする。
- ・子どもの変容をとらえ、一人一人に確かな学力が身に付くような評価方法を工夫する。

### ④ その他

- ・算数の研究成果を他教科にも広げ、学力の向上を図る。
- ・小・中連携して、一層の学力向上を図る。
- ・教科担任制など、効果的な指導の在り方を探る。

## 学力把握のための学校としての取組

### 定期的な学力調査の実施

- ・秋田県学習状況調査の実施(7月)と結果の分析(10月)
  - 4・5年...国語,算数,理科
  - 6年...国語,算数,社会,理科
- ・都市一斉算数テストの実施(1月)
  - 1～6年...算数
- ・CRT学力検査の実施(1月)と結果の分析(2月)
  - 1・2年...国語,算数
  - 3～6年...国語,算数,社会,理科
- ・校内学習状況調査の実施(2月)
  - 3・4年...国語,算数,理科
  - 5・6年...国語,算数,社会,理科
- 子どもの意識調査の実施
  - ・学習全般と算数に関するアンケート調査の実施(6月と12月)と結果の分析(1月)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 公開研究会の開催実績

- 日時 : 平成15年11月27日(木)
- 場所 : 自校(二ツ井町立二ツ井小学校)
- テーマ : 一人一人に確かな学力を～算数科と中心として～
- 対象 : 能代市山本郡内小・中学校

### 公開研究会の開催予定

- 日時 : 平成16年10月8日(金)
- 場所 : 自校(二ツ井町立二ツ井小学校)
- テーマ : 一人一人に確かな学力を～共に学び合い、高め合う子どもの育成～
- 対象 : 秋田県内小学校 能代市山本郡内中学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)